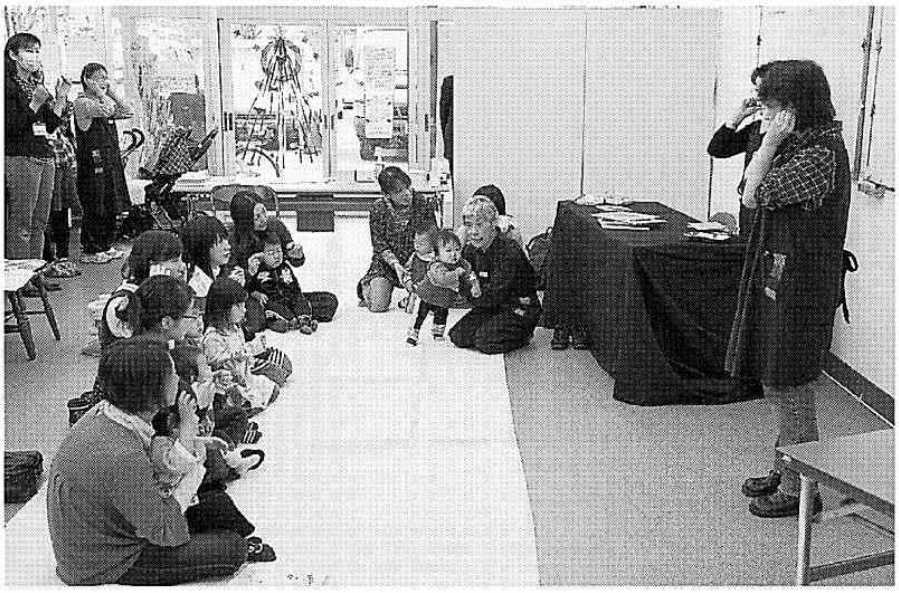
子どもの預かりや地域の交流拠点として期待されるフレキシブル支援センター



# 介護、一時保育 幅広く

## 市内初「フレキシブル支援センター」

## 地域の交流拠点に

【江別】市内初の「フレキシブル支援センター」が30日、ほっとハウスおおあさ（大麻東町13）に開設された。子どもからお年寄りまで幅広く受け入れ、一時的な預かりや介護のサービスを提供するほか、世代間・地域の交流拠点としても活用する。　（相川康暁）

高齢者や障害者、乳幼児などさまざまな人を対象に「フレキシブル」（柔軟性のある）な支援を行い、介護福祉分野の求職者の実践の場とするのが狙い。道内では珍しい施設という。

国のふるさと雇用再生特別交付金を利用し、市がセンターを設置した。NPO法人「当別町青少年活動センターゆうゆう24」に運営を委託。スタッフ5人を新規雇用し、事業費は年間約1千万円。

同法人は10月から、当別町でも同様の施設を運営しており、小西力センター長は「サービスを必要とする誰もが利用できるのが大きな特徴」と話す。

センターの開設は平日の午前9時～午後6時で、利用に予約は不要。授乳室や交流スペース、子どもが遊べるおもちゃ、絵本なども備えている。

30日はセンター開設記念のイベントとして、子育て団体「おはなしなあに」による絵本の読み聞かせ会を開催。親子連れ約30人が読み聞かせや指人形劇、手遊びを楽しんだ。

団体利用も受け付けている。問い合わせは同センター☎376・0644へ。

（C）北海道新聞社　無断転載、複製及び頒布は禁止します。